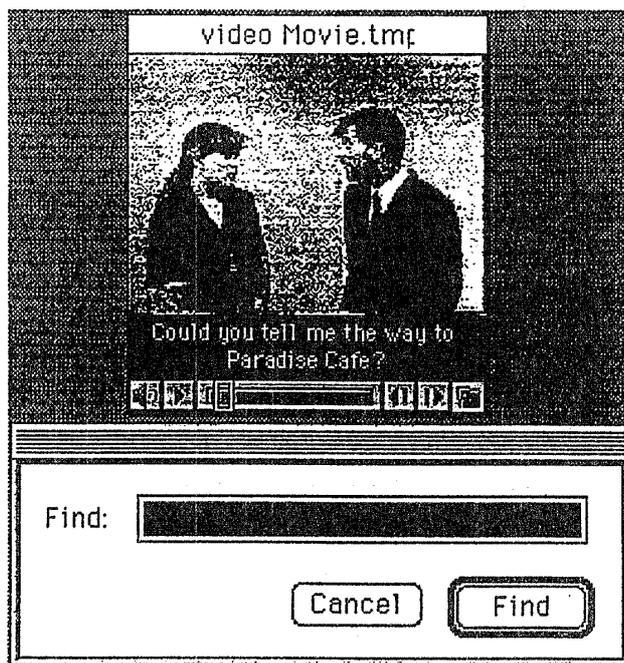


・テキストと音声を含むビデオ画像



4 参考文献

- Edwards, J. A. and Lampert, M. D. eds. (1993) *Talking Data: Transcription and Coding in Discourse Research*. Lawrence Erlbaum Associates.
- 田中太郎. (1994) QuickTime チューンナップ・テクニック(1) テキストトラックを活用した Movie の作成. *MacLife* 75. 375-378.
- Thompson, N. (1994) Somewhere in QuickTime: Supporting Text Tracks in Your Application. *develop* 20. 44-49.
- Leech, G., Myers, G. and Thomas, J. eds. (1995) *Spoken English on Computer*. Longman.

提案5

第2言語習得者の英文コーパス作成：比較修辞法の観点から

名古屋外国語大学 原田 邦彦

近年、英米語においてはコーパスの電子化が進んでおり、Johansson et al. (1978)の Lancaster-Oslo/Bergen (LOB) Corpus や W. N. Francis and H. Kucera (1961)の Brown Corpus などの英文コーパスは一般に公開されている。しかし、第2言語取得者による英文コーパスはまだ遅れており、非常に少ない。そのようなコーパスは教育者、研究者にとっては第2言語におけるライティングの分析を行う上で重要である。例えば、これまで日本の英語教育ではセンテンスレベルでの英作文が一般的であったが海外留学者が増えてきていることもあり、談話レベルでの英文ライティングが注目されて

9月15日(金) シンポジウム第3室(733)

きている。そうした中で英語を母国語とするものと英語を第2言語と取得しているものでは当然、修辞法のパターンが異なる考えられる(Kaplan, R. 1966)。このような研究は比較修辞法と呼ばれ、異なる言語は異なる修辞法のパターンを持つために、それが文法、語彙、その他の表面的な違いとなって現れると信じられる(Grabe and Kaplan 1989)。

又、以前は膨大な時間と労力がかかったテキストの定量分析なども、コンピューターの発達によってかなり容易になってきた。そのような状況の中で第2言語取得者の英文コーパスを作成し、比較修辞法の観点からそれら进行分析し、第2言語取得者の英文ライティング教授に利用するのは非常に効果的である。

Carlson et al.'s corpus (1985)は Test of English as a Foreign Language (TOEFL) のライティングの部分である Test of Written English (TWE)を作成するために作られた数少ない第2言語取得者を対象としたコーパスの一つである。しかしながら、それを英語教授法という観点からみるといくつかの問題が見られる。それは TOEFL がアメリカの大学に入学を希望するものを対象にしているために専門化していると点である。例えば、Carlson et al.'s corpus のライティングトピックは数校の大学院の教員にアンケートを取って彼らにとってもっとも適切と思われるものを選んだため、英語を外国語として学ぶ(English as a Foreign Language, EFL)初中級者にとっては非常に難解であり、トピックが学問の分野に偏っているといえる。又、Carlson et al.'s corpus では学生は30分しか与えられなかった。アメリカの大学生でもそのようなライティングを書くとき60分は与えられるので、ここでも又、EFL 初中級者には難しすぎるといえる。

この研究では、Carlson et al.'s corpus を基に、比較修辞法の観点から第2言語取得者による英文コーパス、特に EFL の日本人学生のコーパスを作る際の注意事項を考える。そうすることによって比較修辞法の研究を促進し、英文ライティング教授法のヒントを得ることに役立てたい。

Carlson, S. ; Bridgeman, B. ; Camp, R. ; and Waaners, J. (1985). Relationship of admission test scores to writing performance of native and non-native speakers of English. *TOEFL Research Report* No. 19. Princeton, N.J.: Educational Testing Service.

Grabe, W., and Kaplan, R. B. (1989). Writing in a second language: Contrastive rhetoric. In D. M. Johnson and D. H. Roen (Eds.), *Richness in writing: Empowering ESL students* (pp. 263-283). New York: Longman.

Kaplan, R. (1966). Cultural thought patterns in intercultural education. *Language Learning*, 16. (1-2) 1-20.